

如水会寄附講義 「社会実践論」講義要綱 (2018年度秋冬学期)

講義責任者：武村 知子

如水会寄附講義「社会実践論」は、一橋大学を卒業後、社会の第一線で活躍している同窓生13人によるオムニバス形式の授業です。

一橋大学の卒業生は、金融、商社、製造業といった分野にとどまらず、実に様々な分野で活躍しています。こうした先輩たちは、どのような学生時代を送っていたのでしょうか。卒業後はどのような成功や失敗あるいは転機を経て、「今」があるのでしょうか。その過程で培われてきた職業観や価値観とは？

先輩たちの辿った多様な道を知ること、仕事の分野は異なってもその根底に流れる「仕事に取り組む上での基本的な考え方や態度とは何か」を知ることになるでしょう。それは更に、我々は何のために社会科学を学ぶのか、社会科学は社会の諸問題の解決にどんな役割が果たせるのか、を学ぶことにもつながります。

授業では、一方的に講義を聴くだけでなく、質疑応答やグループディスカッション、更には感想文を記述する時間も設けます。講義内容を反芻し、自身に照らし合わせ、自分の考えや受け止め方を言葉や文章にしてアウトプットする作業を通じ、講義内で得た学びや気づきを確実に自分の中に落とし込みます。

キャプテンズ・オブ・インダストリーとして活躍する先輩の経験に裏打ちされた職業意識や人生哲学に触れ、その姿に自分たちの将来像を投影することで、大学生の間に学んでおくことは何か、この先の人生をどう進んでいくべきか、限らない可能性を秘めた未来に何ができるかを考える上での道標となる講義です。

	日付	テーマ	講師
第1回	9月 19日 (水)	一橋大学と如水会	岡田 円治
第2回	9月 26日 (水)	スポーツのある豊かな文化をめざして	木下 由美子
第3回	10月 3日 (水)	これからの時代を生きるための「お金」と「時間」	富田 和成
第4回	10月 10日 (水)	総合商社の現場から これからの仕事を考える	金森 麻衣子
第5回	10月 17日 (水)	絶望の果てにたどり着いたティール組織	柴田 紳
第6回	10月 24日 (水)	「弁護士」の仕事の魅力	小松 徹也
第7回	10月 31日 (水)	東京オリンピックを楽しもう	有田 浩之
第8回	11月 7日 (水)	人生プラン・キャリアプランを自ら描き自ら創る	小沼 志緒
第9回	11月 14日 (水)	グローバルな日系企業とローカルな外資系企業	木下 知之
第10回	11月 21日 (水)	「後継者」と「起業家」～二足のわらじを履いてみた！	平野 健二
第11回	11月 28日 (水)	未来を切り拓く力	高橋 克徳
第12回	12月 5日 (水)	自分も周りも元気になる働き方と人を幸せにするお金の回し方	吹田 朝子
第13回	12月 12日 (水)	故郷の家業を継ぐ、という選択肢	中原 晋司

第1回 9月19日(水)

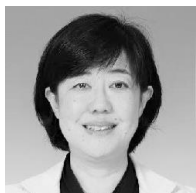


テーマ：一橋大学と如水会

講師：岡田 円治 経済学部・昭和48年（1973年）卒
一般社団法人 如水会 理事・事務局長

社会実践論第1回は、「一橋大学とは何か？」です。大学の歴史は「波乱に満ちた歴史」です。その中で育まれ、成長していった一橋大学の精神は、日本の近代化、高度に発展した経済国家への道のりと軌を一にしています。そして同窓会「如水会」は、その中でどのような役割を果たしてきたのか？通常の同窓会とは全く異なる如水会の存在と役割について考えます。また、私は42年間NHKでニュース報道番組の制作や編成に携わってきました。NHK人生の中で得た事、ジャーナリズムの世界では、大学で学んだどの部分が、どのように生きるのか。単なる知識ではない、「考え方を学ぶことの大切さ」についても考えます。

第2回 9月26日(水)



テーマ：スポーツのある豊かな文化をめざして

講師：木下 由美子 法学部・昭和59年（1984年）卒
公益社団法人日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）
チェアマン特命 外交担当

私はサッカー経験がありません。「では何故サッカーの仕事を？」とよく聞かれます。これまで日本銀行やマッキンゼーなど幾つかの仕事で数々の経験を積んできた過程で、人のご縁、好奇心、“社会の役に立ちたい”という少しばかりの正義感が私をサッカーと巡り合わせてくれたのでしょう。私自身のこれまでの軌跡も織り込みながら、『公共財』を目指すJリーグをご紹介します。学生の皆様には、スポーツビジネスに興味を持ってもらおうと同時に、仕事とは会社には所属することだけではないことを感じてもらえればと考えています。

第3回 10月3日(水)



テーマ：これからの時代を生きるための「お金」と「時間」

講師：富田 和成 経済学部・平成18年（2006年）卒
株式会社ZUU 代表取締役

卒業後、野村證券に入社した私は、「人生を前進させるための”ガソリン”である”お金”に関するリテラシーを身につけることで、夢や目標に向かって全力でチャレンジする人を増やしたい」という想いから、2013年に金融メディア『ZUU online』を立ち上げ、株式会社ZUUを設立しました。近年、クラウドファンディングや家事代行サービスなど個人がお金を生み出したり、お金で時間を買うための選択肢が急速に広がる中、お金のことを真剣に考えて、リテラシーを身につけ行動することで得られるものは格段に大きくなることでしょう。個人の人生を営むための資産である「お金」と「時間」について一緒に考え、皆さんが夢や目標に向かって踏み出すきっかけとなるようなお話ができればと思います。

第4回 10月10日(水)



テーマ：総合商社の現場から これからの仕事を考える

講師：金森 麻衣子 商学部・平成14年（2002年）卒
三井物産株式会社 プロジェクト本部戦略企画室

総合商社というとどんな仕事をしているイメージでしょうか？人によって、時代によってイメージは大きく異なり一つの解はないと思います。それは、商社の仕事は時代の変化に合わせて自ら進化し続けるビジネスモデルだからだと考えています。私自身が携わってきたインフラ事業を中心に商社での仕事を紹介し、これまでの経験からの気づきをお話したいと思います。進化し続ける商社の仕事をリアルに感じてもらうと同時に、不確実性が高まるこれからの時代において、みなさんがキャリアを考える上で何かヒントを得てもらえれば幸いです。

第5回 10月17日(水)



テーマ：絶望の果てにたどり着いたティール組織

講師：柴田 紳 社会学部・平成10年（1998年）卒
株式会社ネットプロテクションズ 代表取締役社長CEO

98年に大学卒業後、総合商社に3年間勤めた後、VCに転職。すぐに破綻寸前で売上0の当社を買収しました。26歳で新規事業構築、企業再生を行うことになり、そこから17年間ずっとこの会社で経営をしています。絶望的な状況を幾たびも乗り越え、次第に「真に良い会社」という理想を夢見るようになりました。数限りない修羅場経験こそが大きな学びになり、今現在ではまさに「ティール組織」（進化型組織）にたどり着きつつあります。どんな絶望があったか、そこからどういった学びを得たか、ティール組織とは何か、社会の未来を担う学生の皆さんに、少しでも糧となるようなお話ができればと考えています。

第6回 10月24日(水)



テーマ：「弁護士」の仕事の魅力

講師：小松 徹也 法学部・平成13年（2001年）卒
岩田合同法律事務所 弁護士

社会の血液を循環させ企業を幅広く支援する金融機関で働きたいと思い、就職したのが17年前。その後、弁護士を目指すことに。現在は企業法務を中心に仕事をしています。弁護士は、社会全般のルールである法令を取り扱い、紛争の予防、発生、解決など様々な場面で企業を幅広く支援することができます。講義では、仕事の実情や可能性、その魅力だけでなく、私の経験を通して得た職業観等についてお話するとともに、「弁護士の将来性は？」「司法試験？それとも就職？」などの疑問についても考えてみたいと思います。キャプテンズ・オブ・インダストリーとして次の時代を創る皆さんが将来を考える一助になれば幸いです。

第7回 10月31日(水)



テーマ：東京オリンピックを楽しもう

講師：有田 浩之 経済学部・昭和62年（1987年）卒
ブラックロック・ジャパン株式会社 代表取締役社長

2020年、私たちは東京で二回目のオリンピックが開催されることを楽しみにしていますね。年間約3,000万人の外国人が訪れるこの豊かな日本。第一回目の東京オリンピックは1964年のことでした。きっと私たちと同様に当時も日本中が期待し、その開催自体を誇りに思ったことでしょう。銀行業から運用業へ。私は伝統と実績を誇った大銀行から知名度皆無の日本人なんて一人もいない、アメリカのちっぽけな投資運用会社に転職しました。その会社は今では世界最大の規模に成長しました。現代の繁栄をもたらした戦後の経済発展を支えた金融の仕組みと、今後の資産運用業の役割を考え、一橋大学の皆さんに期待することを私自身の経験を踏まえてお話したいと思います。

第8回 11月7日(水)



テーマ：人生プラン・キャリアプランを自ら描き自ら創る

講師：小沼 志緒 商学部・平成17年（2004年）卒
ランサーズ株式会社 執行役員CFO コーポレート部 部長

現在、クラウドソーシングのパイオニア企業であるランサーズ株式会社において執行役員CFOを務めながら、NPOを起業した夫と共に2児（5歳長女、2歳長男）の子育てに邁進しております。学生時代からCFOになるというキャリアビジョンを持ち、新卒で投資銀行の道を選びました。ファイナンスの修行を積み重ねた後、事業会社（リクルート）財務部に転職し、IPOやM&A、グローバル拠点展開に携わる中で経営の意思決定に関与してきました。これまで歩んできたキャリアにおいて学んだことや、キャリアと家庭の両立を図るために自分がやってきたこと等をお伝えできればと思います。

第9回 11月14日(水)



テーマ：グローバルな日系企業とローカルな外資系企業

講師：木下 知之 商学部・平成13年（2001年）卒
アマゾンジャパン合同会社 消費財事業本部
Amazonパントリー プログラムリーダー

最先端のマーケティングの場に身を置きたい！という思いを胸に入社したソニーで配属された先は本社経営企画。まともに財務諸表も見たこともなかった自分が、いつの間にか経営企画を核として生きることに。その間アメリカでの5年間の駐在生活を経て、アマゾンのバイヤーに転身、現在はamazonパントリーという消費財サービスの事業運営をしています。約20年の社会人経験の軌跡を通して、日系企業と外資系企業、メーカーと小売り、本社と現場、日系企業の駐在員、AI時代のビッグデータと言った切り口から、グローバル企業に身を置きながら職業観を形作っていく過程をたどることで、近い将来、皆様が生き方を選択される際の判断の一助となれればと考えております。

第10回 11月21日(水)



テーマ：「後継者」と「起業家」～二足のわらじを履いてみた！

講師：平野 健二 商学部 昭和57年（1982年）卒
株式会社サンキュドラッグ 代表取締役社長 兼 CEO
Segment of One & Only株式会社 代表取締役社長
九州大学客員教授

利益の出ない薬局チェーンの後継者として生まれ、年商6億円から230億円まで育てたものの、「小売業の役割とは何か」を考え続けるうち、49歳で起業を決意！全国1000万人の顧客データベースを創ってOne to One MKTGを実践し、人口減少＋市場縮小の日本経済に光を放つべく、ブランドと顧客の創造を行っています。傍ら大学での教鞭も取り、3人分の人生を楽しんでいます。60歳を前に未来を考える人生～いかがですか？

第11回 11月28日(水)



テーマ：未来を切り拓く力

講師：高橋 克徳 商学部・平成3年（1991年）卒、平成8年（1996年）修
株式会社ジェイフィール 代表取締役
武蔵野大学経済学部経営学科 特任教授

大学卒業後、野村総合研究所でリサーチヤーとなるが、自分の柱がないと気づき大学院に留学。会社復帰後、経営コンサルタントになるが、他大学の博士課程にも進学。その後、新たな師匠を求めて外資系コンサルティング会社に転職。今は「感情とつながり」の再生を支援するコンサルティング会社の経営者であり、大学教員でもあります。パラレルキャリアでここまで来ましたが、自分の中にある思いは学生時代から大きく変わっていません。それは「いわれなき弱者」が生まれない社会をつくりたいという思いです。人がつながり、支え合い、未来へ一緒に踏み出してける関係をどうつくるか。キャリアを通じて見えてきた組織と人の本質を紹介しながら、未来を切り拓く力について一緒に考えていきます。

第12回 12月 5日(水)



テーマ：自分も周りも元気になる働き方と人を幸せにするお金の回し方

講師：吹田 朝子 商学部 平成1年（1989年）卒
一般社団法人円流塾 代表理事
ファイナンシャル・プランナー（CFP®）

何のために働くのか？稼ぐのか？働いて手にしたお金はどのように使ったら納得がいくのか幸せなのか？社会に出て生活する人はみな何度もこの問にぶつかると思います。私自身もそうでした。就職・結婚・出産・独立自営・子育て・法人化など、様々な人生のステージで環境も収入も変化する中、どのようにお金を管理して家族や仲間とシェアしていけば幸せを実感できるのか？今回は私の経験のみでなく、3300人以上の人生とお金の相談に応じてきた様々な事例もお伝えしながら、簡単な価値観分析も加えて、皆さんのこれからの人生設計に役立てていただければと思っています。会社で働くだけでなく、起業、副業、夫婦の働き方など気になることは何でも質問していただければと思います。

第13回 12月12日(水)



テーマ：故郷の家業を継ぐ、という選択肢

講師：中原 晋司 商学部・平成11年（1999年）卒
中原水産株式会社 代表取締役

皆様の中には、ご実家が事業経営をされている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

私の実家は、鹿児島県枕崎市において中原水産株式会社という中小・同族企業を営んでおり、先代は父が社長を務めておりました。一橋大学入学、経営コンサルティング会社への就職、そしてベンチャー企業へ転職・・・自身の進路決定には、いつも家業の存在が大きく影響していました。そして、今まさにその家業の事業を先代から承継し、既存事業の見直しや新規事業の立ち上げを行ってきました。大学卒業後、多種多様な職業の選択肢がある中で、なぜ家業を継ぐことにしたのか、地方の中小企業に未来はあるのか、自身の経験とその時々を考えていたことを振り返りながら、お話しできればと思います。